

(2) 作溝・中干し ～有効茎が確保されたほ場から始めましょう～

有効茎数（「はえぬき」：内陸 480本/m²、庄内 540本/m²）を確保したら、速やかに作溝・中干しを行います。中干しは、無効分げつの抑制、根の健全化、受光態勢を良くする重要な技術です。さらに、作溝を行うことで、効率よく圃場全体に水を行き渡らせられ、水管理がしやすくなります。

(3) 病害虫防除 ～斑点米カメムシ類やや多い、早急に畦畔の草刈りを！～

県病害虫防除所の調査によると斑点米カメムシ類の発生はやや多い状況です。生息密度を下げるため早急に畦畔等の除草を行きましょう。

葉いもちの発生量は平年並みと予想されていますが、取り置き苗で、いもち病の発病が平年よりやや早く確認されています。水田に放置された取り置き苗は、直ちに処分しましょう。葉いもち防除の箱施用剤を使用していない場合は、6月20日までに遅れず本田施用剤（粒剤等）を散布します。

(4) 除草対策 ～残草がある場合は遅れずに対応！～

除草剤散布後に田面が露出したほ場や、除草剤散布が遅れたほ場では、防除効果が劣る場合があります。ほ場を見回り、残草の種類や葉齢等を確認して遅れずに対応しましょう。

(5) 直播栽培 ～目標茎数の確保、葉いもち防除と残草対策を実施～

湛水直播「はえぬき」の5葉期の適正茎数は、250～300本/m²が目安となります。茎数が不足している場合は、水深2～3cmの浅水管理を行って、分げつを促進します。

葉いもちの予防薬剤を使用していない圃場では、6月20日までにいもち病に効果のある殺菌剤（粒剤等）を散布しましょう。

つや姫の生育と技術対策

「つや姫」の生育は、草丈、茎数、葉数、葉色のいずれも平年並みとなっていますが、生育量の圃場差が大きい状況です。茎数が不足しているほ場では、水深2～3cmの浅水管理を継続します。また、日中止水・夜間かんがいを徹底して分げつを促進し、有効茎を確保しましょう。有効茎数（内陸 410本/m²、庄内 440本/m²）を確保したら、速やかに作溝・中干しを行います。適期に適量の穂肥ができる生育量にコントロールすることが重要です。

「つや姫」の生育（6月10日）

項目	調査値	平年値	平年比・差
草丈	29.4 cm	29.3 cm	100 平年並み
茎数	231 本/m ²	232 本/m ²	100 平年並み
葉数	6.3 枚	6.3 枚	0.0 平年並み
葉色 (SPAD)	34.3	34.5	-0.2 平年並み

※各農業技術普及課の調査結果を平均した値

※6月20日 指標値（栽培マニュアル）

<内陸> 草丈38cm、茎数420本/m²、葉数8.2枚、葉色 (SPAD) 39

<庄内> 草丈35cm、茎数460本/m²、葉数8.3枚、葉色 (SPAD) 39

農作業事故と熱中症に十分注意してください！

休憩をまめにとり、水分補給を行いながら、無理のない作業を！